

地域医療支援病院の承認申請について

(地方独立行政法人 市立吹田市民病院)

医療法第4条の規定に基づき地域医療支援病院の承認申請を予定する医療機関

※ 令和2年4月1日現在

1. 概 要

フリガナ 名称	シリツスイタシミンビョウイン 市立吹田市民病院
所在地	大阪府吹田市岸部新町5番7号
開設者	地方独立行政法人 市立吹田市民病院 理事長 矢野 雅彦
管理者	内藤 雅文
開設年月日	平成30年12月1日
病床数	一般病床 431床
診療科目	◎内科、血液内科、内分泌・代謝内科、呼吸器・リウマチ科、循環器内科、 消化器内科、脳神経内科、△小児科、◎外科、消化器外科、呼吸器外科、乳 腺外科、小児外科、◎整形外科、△脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼 科、皮膚科、腎臓泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーシ ョン科、麻酔科、精神科、心療内科、病理診断科、救急科、歯科(障がい者)
救急 医療 体制	◎固定通年制 ○非通年制 △輪番制

2. 沿 革

- ・昭和28年 7月 市立吹田市民病院 吹田市大字片山763(現在の吹田市出口町)に開設
 - ・昭和57年 9月 吹田市片山町に移転開設
 - ・昭和57年 11月 救急告示医療機関認定
 - ・平成 1年 1月 歯科(障がい者)設置
 - ・平成13年 4月 地域医療連携部 設置
 - ・平成18年 4月 開放病床 設置
 - ・平成21年 4月 大阪府がん診療拠点病院に指定
 - ・平成26年 4月 地方独立行政法人へ移行
 - ・平成26年12月 地域包括ケア病棟 設置
 - ・平成30年 2月 病院機能評価取得
 - ・平成30年12月 現在地(岸部新町)に移転
- ～ 現在に至る

「地域医療支援病院」承認要件一覧

令和2年3月31日現在

		記入例	記入欄	
病院名		医療法人〇〇会 〇〇病院(正式名称)	市立吹田市民病院	
病院所在地		〇〇市〇〇区〇〇1丁目2番3号	吹田市岸部新町5番7号	
開設者		医療法人〇〇会	地方独立行政法人市立吹田市民病院	
開設者所在地		〇〇市〇〇区〇〇3丁目2番1号	吹田市岸部新町5番7号	
許可病床数		一般 300床・療養 200床 合計 500床	一般 431床	
施設設備	集中治療室	病床数	12床 (うち ICU8床、CCU4床)	4床
		主な設備	パルスオキシメーターほか	救急蘇生装置、人工呼吸装置ほか
	新生児集中治療室(NICU)	病床数	—	—
		主な設備	—	—
	化学検査室	主な設備	生化学自動分析装置ほか	自動血球分析装置、血液自動塗抹標本作製機ほか
	細菌検査室	主な設備	細菌同定装置ほか	自動同定感受性測定装置、炭酸ガス培養測定装置ほか
	病理検査室	主な設備	自動包埋装置、滑走式マイクロームほか	自動密閉式固定包埋装置、パピニコロウ染色装置ほか
	病理解剖室	主な設備	解剖用ベッド、遺体保管用冷蔵庫ほか	I型解剖台、遺体保冷库、臓器撮影装置ほか
	研究室	主な設備	パソコン、ビデオ、OHPほか	電子カルテ端末、プリンタ
	講義室	室数 (室)	2 (室)	3 (室)
		収容定員 (人)	120 (人)	150 (人)
	図書室	室数 (室)	1 (室)	1 (室)
		蔵書数 等	蔵書4,000冊、インターネット等	蔵書4308冊、電子図書等
	救急用自動車	保有台数 (台)	2 (台)	1 (台)
主な設備		酸素吸入器、除細動器、アンビューほか	酸素ボンベ固定装置、散光式回転灯、消火器ほか	
医薬品情報管理室	専用・共用	専用	専用	
	床面積 (㎡)	30.5 (㎡)	19.41 (㎡)	
紹介率・逆紹介率にかかる承認要件		紹介率65%・逆紹介率40%	紹介率65%・逆紹介率40%	
令和元年度 地域医療支援病院紹介率 (①/⑥) × 100 (%)		85.8 (%)	70.1 (%)	
同上逆紹介率 (⑦/⑥) × 100 (%)		35.3 (%)	57.6 (%)	
上記の算出根拠	紹介患者数 ①		8,500 (人)	12,448 (人)
	初診患者数	初診患者総数 ②	18,000 (人)	26,966 (人)
		②のうち、救急搬入患者数 ③	3,000 (人)	1,982 (人)
		②のうち、休日・夜間の患者数 ④	5,000 (人)	7,229 (人)
		②のうち、健康診断の受診から要治療となって治療を開始した患者数 ⑤	100 (人)	0 (人)
		差し引き ②-③-④-⑤ ⑥	9,900 (人)	17,755 (人)
	逆紹介患者数 ⑦	3,500 (人)	10,243 (人)	
直近の地域医療支援病院紹介率等	算出期間		R2.4.1~R2.7.31	
	地域医療支援病院紹介率	65 (%)	71.3 (%)	
	地域医療支援病院逆紹介率	40 (%)	64.6 (%)	
共同利用の実績	前年度共同利用を行った医療機関数	1,200 (件)	830 (件)	
	うち直接関係のない医療機関数	1,100 (件)	830 (件)	
	共同利用に係る病床の利用率	50 (%)	43.5 (%)	
	開放型病院共同診療管理料	250 (件)	5 (件)	
共同利用の範囲	建物の全部・一部	一部	一部	
	開放型病床数	50 (床)	5 (床)	
	規定の有無	有り	有り	
開設者と直接関係のない登録医療機関数		200 (件)	244 (件)	
救急医療を提供する能力	医療従事者(常時最低確保数)	医師	常勤専従 1人 常勤非専従 40人	救急外来 専従者 常勤、非常勤合わせて2人 病棟 専従者 常勤、非常勤合わせて4人
		看護師	常勤専従 35人 常勤非専従 20人	救急外来 専従者 常勤、非常勤合わせて3人 病棟 専従者 常勤37人
		診療放射線技師	常勤非専従 15人	非専従者 常勤1人
		臨床検査技師	常勤非専従 10人	非専従者 常勤1人
		薬剤師	常勤専従 1人	非専従者 常勤1人
		臨床工学技士	常勤専従 1人	(オンコール)非専従者 常勤1人
	病床の確保状況	優先病床数	20 (床)	2 (床)
		専用病床数	0 (床)	8 (床)
救急用診療施設・設備		救急診療室、ICU、CCUほか	救急診療室、中央手術室ほか	
地域の医療従事者に対する研修機能	前年度の研修者数	800 (人)	2,104 (人)	
	研修プログラムの有無	有り	有り	
	研修委員会の有無	有り	有り	
	研修指導者数	9 (人)	3 (人)	
	研修実施のための施設・設備	会議室・セミナールーム 計6室	講堂 計3室	
診療に関する諸記録及び管理・運営に係る諸記録の管理方法	診療に関する諸記録	診療情報管理室	サーバ室、カルテ庫、各担当部署	
	共同利用の実績	地域医療支援室	患者支援センター	
	救急医療の提供の実績	診療情報管理室	サーバ室	
	地域の医療従事者のための研修の実績	地域医療支援室	患者支援センター	
	諸記録の閲覧の実績	診療情報管理室	患者支援センター、医療事務室	
患者紹介の実績	診療情報管理室	患者支援センター		
患者相談体制の整備		有り(MSW 3名体制)	有り(MSW 6名体制)	
地域医療支援病院運営委員会		規程有り (平成30年度4回実施、令和元年度2回)	設置要綱あり(令和元年度1回実施)	
居宅等医療提供施設等への支援		支援対象施設を登録のうえ、病院ホームページ上に登録施設リストを掲載	訪問看護ステーション利用者のフォローアップ	
備考		平成 8年 1月 救急告示 平成 15年 2月 外来院外処方	昭和57年11月 二次救急告示医療機関認定 平成21年4月 大阪府がん診療拠点病院指定	

※これは様式例ですので、申請要件等にあわせて適宜加工してください。また、時点(いつ現在)を必ず入れてください。

地方独立行政法人 市立吹田市民病院

基本理念

市民とともに心ある医療を

病院運営方針

1. 全職員がたゆまぬ研鑽につとめ、相互協力して良質で安全な医療の提供に努めます。
2. 早期診断、早期治療に全力を注ぎ、地域医療システムと連携して継続医療を行います。
3. 救急医療、災害医療の充実に努めます。
4. 市民の健康増進に寄与し、疾病の予防に努めます。
5. インフォームドコンセントを尊重し、個人情報保護に努めます。
6. 効率的な運営に努め、経営改善に取り組みます。

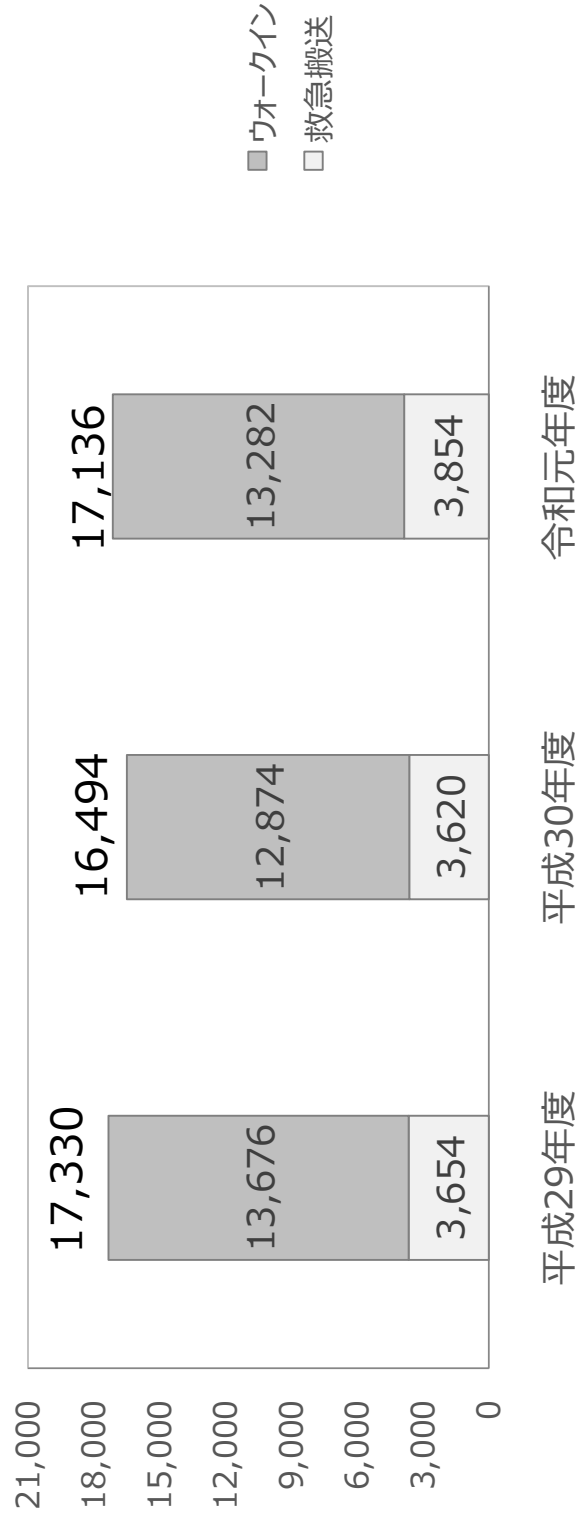
1. 救急受入体制の強化

救急医療については、救急専従医師の配置や救急専用病床の設置により救急受入体制の強化を行っている。

→令和元年度の救急受入件数（ウォークイン含む）は年間17,136件

平成30年度と比べると+642件の受入を行っている。

救急受入件数（ウォークイン含む）

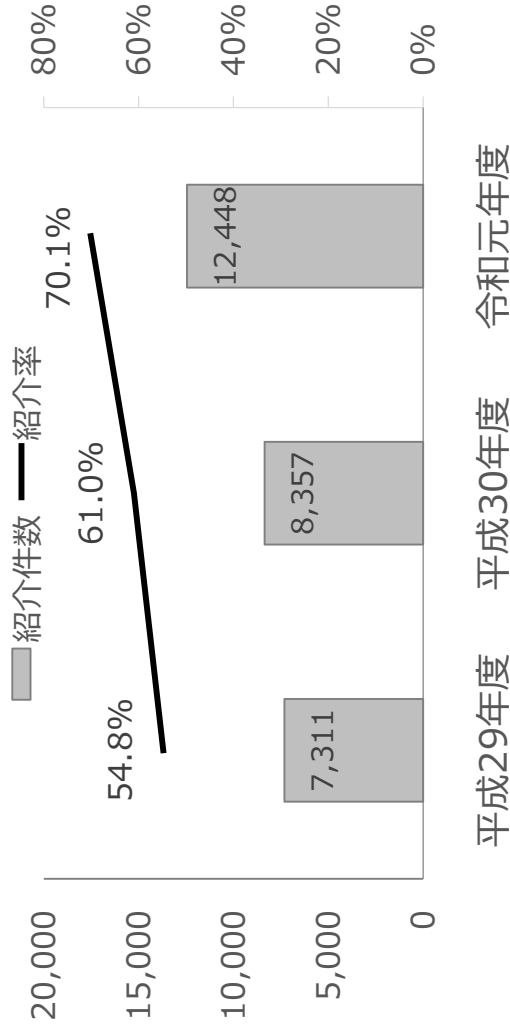


2. 紹介患者のスムーズな受入体制の構築

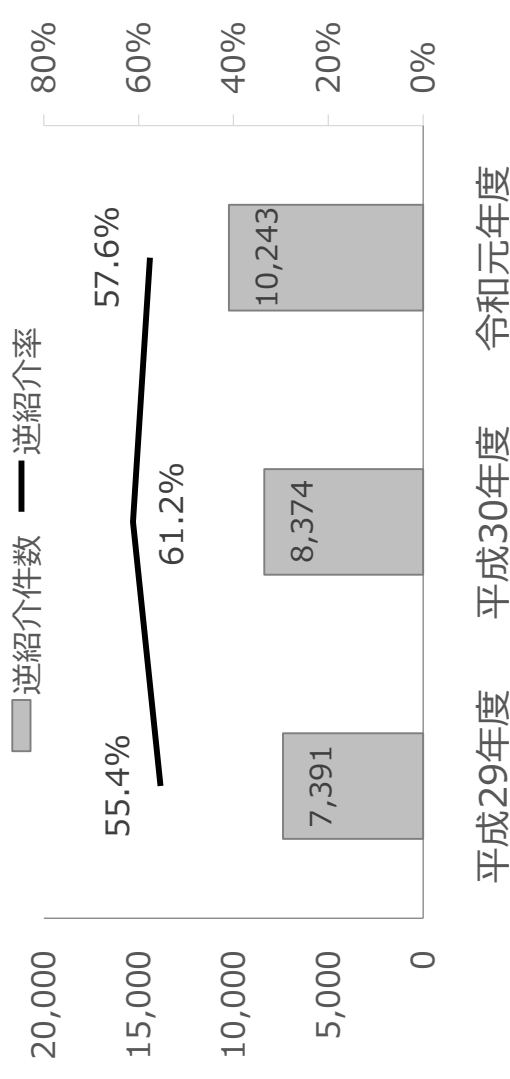
地域医療連携部門とベッドコントロール部門を患者支援センター内に設置し、当日受診依頼をスムーズに受け入れることができるように運用している。また、断り事例を幹部会等に報告し運用について課題があれば改善を図るよう取り組んでいる。

- 1) 医療機関からの年間紹介件数 8,357件（平成30年度）→12,448件（令和元年度）
- 2) 医療機関への年間逆紹介件数 8,374件（平成30年度）→10,243件（令和元年度）

1)医療機関からの年間紹介件数



2)医療機関への年間逆紹介件数



3. コロナ禍での取り組み

1) 公立病院として新型コロナウイルス感染症の対応を行っている。

発熱外来、地域外来検査センターを設置し、診療体制の拡充に取り組んでいる。

2) 地域の医療従事者向け研修の実施

コロナ禍で集合研修ができない状況の中、web(zoom)にて開催している。

①令和2年10月15日（木）臨床セミナー 演題：当院における小児アレルギー疾患の治療 食物負荷テスト
喘息における生物学的製剤の使用を中心に

②令和2年11月19日（木）臨床セミナー 演題：明日から実践できる乾燥性皮膚疾患ケアのポイント

③令和2年12月17日（木）臨床セミナー 演題：新型コロナウイルス感染症の現状と院内感染対策